

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-640	15-037	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Predictors of 30-day readmission and impact of same-day discharge in laparoscopic hysterectomy. 腹腔鏡下子宮摘出術の同日退院の影響と退院後 30 日以内の再入院予測因子		
執筆者		
Jennings AJ, Spencer RJ, Medlin E, Rice LW, Uppal S.		
掲載誌		
Am J Obstet Gynecol. 2015 Sep;213(3):344.e1-7. doi: 10.1016/j.ajog.2015.05.014.		
キーワード		PMID
再入院率, 腹腔鏡下子宮摘出術, 手術日退院, 外科的合併症		25981843
要 旨		
目的： 本研究の目的は、手術後同日退院する影響と退院後 30 日以内の再入院における退院前予測因子を確認することである。		
方法： The National Surgery Quality Improvement Program (NSQIP)の 2012 年データベースを用いて、婦人科の外科手術を受けた 36,941 人のうち、両側の卵管卵巣摘出術の有無にかかわらず腹腔鏡下子宮摘出術を受けた患者 8,890 人を対象とした。手術同日退院の安全性は同日に退院しなかった患者と比較し再入院率・合併症率で評価した。腹腔鏡下子宮摘出再入院スコア(LHRS)は 糖尿病、慢性閉塞性肺疾患、播種性癌、慢性的なステロイドの使用、出血障害、2 時間かそれ以上の手術の長さを 1 点、退院前までのあらゆる術後の合併症を 2 点として計算した。		
結果： 本研究の対象者8,890人のうち、30日以内の再入院率は3.1% (277名)であった。再入院率の高予測因子は、手術前の特性では、糖尿病(4.4%vs3.0%;P=.03)、慢性閉塞性肺疾患(8.5%vs3.1%;P=.02)、播種性癌(20%vs3.1%;P<.001)、慢性的なステロイドの使用(7.1%vs3.1%;P=.03)、日常的な2杯以上のアルコール使用(12.5%vs2.5%;P=.04)、出血性障害(10.8%vs3%;P=.001)が挙げられた。手術中の要因では2時間以上の平均手術時間が挙げられた (146分vs133分;P=.002)。術後患者は退院後の合併症(3.6%vs1.6%;P=.01)と同様に退院までに1つかそれ以上の合併症を経験した時に高い再入院率を有した(6.9%vs3.1%;P=.01)。感染(35.7%)と外科的合併症(24.2%)は最も共通する再入院の要因であった。全体の20.9%(1,855名)が手術日に退院し、同様の再入院率を有した(2.6%vs3.2%;P=n.s.)。LHRSスコアによる再入院率は、1点(2.4%)、2点(3.3%)、3点(5.8%)、4点(9.5%)であった。		
結論： 腹腔鏡下子宮摘出術後患者は手術日に退院したとしても再入院率が低かった。LHRS は、高ければ再入院率も高くなることを示唆し、手術日退院の患者数を増加させる低いリスクの集団を識別する助けになるかもしれない。		